

アオモリトドマツ(オオシラビリ)が主 コメツガ, ダケカンバが混る。

・高山帯(ハイマツ帯) 1900~2000m

低温強風に耐える。低木が繁茂しハイマツ, ナナカマド, ミネカエデ, ハクサン

シャクナゲ, 100mぐらい密生するガンコウラン, コケモモ, ミネズオウ

コース中の地理・地学・植物

磐梯吾妻スカイラインは1960年(昭和35年)11月完成高湯温泉と土湯峠の間29Km
平均標高1300m, 中心は標高1600mの浄土平で一切経山付近の火山活動の行われている部分を除き全山が針葉, 闊葉樹の原始林でおおわれている。

○高湯(725m)から不動沢橋(1100m)

- ・高湯の温泉の前には吾妻火山の基底をなす, 緑色凝灰岩層, 負岩層等が見られ, 中に海棲動物の化石がある。
- ・ミズナラ林が多く他にブナ, ホホノキ, ダケカンバ(シラカバに似た白い幹を持つ)等
- ・天然記念物 ヤエハクサンシャクナゲの自生地の大根森がある。ヤエハクサンシャクナゲは普通の一重花冠ではなく二重三重になったもの

○天狗, 霜降

- ・上天狗(1400m)までキタゴヨウマツ, ダケカンバ, ブナが疎生してその下にミネカエデ, チシマザサ(2m内外の高さ, 初夏タケノコをとる)などの低木がある。
- ・一切経山の東北斜面から吾妻小富士北斜面に出る付近で赤い溶岩の巖々が見える所がシモフリで植物はまばら

○浄土平(1600m)

- ・一切経山の噴火のため土地が荒れていて, 付近には火口の一部が浸食されずに残っている。溶岩は一般に板状節理を示し火山噴出物は火山礫, 火山灰が最も多い。
- ・タイゲツソウ, ヒメスギ, コメススキ, ミヤマクロスゲ(酸性の強い火山裸地に最初生える)ススキ, ミヤマアキノキリンソウ, キタゴヨウマツ(ハイマツに似ているが種子に羽がある)

○鳥子平~双竜の辻

- ・東吾妻山麓で標高1500~1700mで亜高山針葉樹帯を成す鳥子平は小さな湿原で中に小沼もある。

ミズゴケが密生しその上にワタスゲ, モウセンゴケ, ツルコケモモが生えている。アオモリトドマツが主でシラベ(南限界), コメツガに広葉樹も混る。ミネカエデ, チシマザサ, オオカメノキなどの低木, 草木が下に生育している。

○湖見(ウミミ)峠~土湯峠

天風境(1288)や湖見峠(1240)付近はブナの樹海となり, 他にミズナラ, イタヤカエデ, 低木ミネカエデ, オオカメノキ, チシマザサが密生している。この地帯は霧が多くブナ, ミズナラの幹, 枝には他衣類やコケ類が着生している。

○土湯温泉

吾妻と安達太郎の山境にあり宿泊地山水荘の目の前を流れる溪谷には, 第三紀の負岩, 凝灰岩類等の互層の露頭が見られる。温泉はこれらの地層の断層線沿いに噴出していて, 河床のいたる所に自然湧出が見られる。

泉質は単純硫化水素泉, 含塩類芒硝重曹泉, 重曹泉が多い。リウマチス・胃腸病・神経諸症の保養に適する。元湯, 赤湯 上の湯に分かれている。昭和29年大火で焼け全館新装された。

- ・源泉数42
 - ・湧出量860ℓ/m
 - ・温度34~42°C(1), 42~65°C(38), 不明(3)
- 間歇泉(1)

磐梯高原の地理・地学・生物

○主に裏磐梯をさしているが, 猫籠山, 磐梯山などの山体を含める時もある。

明治21年(1888)磐梯山と高さをきそっていた小磐梯の爆発の時, 山体約17億m³, 重さ300億tを飛散し, 押し出した火山性泥流は77Km/時で北に流れ五つの村と461人の人命を奪った。

南下する川をせきとめ檜原湖, 小野川湖, 秋元湖の三大湖をはじめ大小の湖沼をたくさん出現させ複雑な泥流丘陵, 泥流窪地を作り, 自然の庭園を形成した。気候は, 夏は札幌に相当シケツベン気候区ではDbf(針葉樹林)である。9月平均気温17°C, 雨量143mm,

猪苗代湖の北には地形的に三つの異った山がある。

(1)大寺火山

猪苗代湖北西岸にある。著しく解析された丘陵で第四紀の初め猫魔山、磐梯山に先だって火山活動が行われた安山岩の溶岩、火山岩塊、凝灰集塊が散乱し到る所に小爆発火口が見られる。

(2)猫魔火山

大寺火山の一部を被覆して磐梯の背景を成している1000m連峯で、頂上には1089mの水面高度をもつ火口湖雄国沼がある。この火山体は輝石安山岩類で構成されている。

(3)磐梯火山

第四紀中頃から活動を続けている。現在単独に孤立しているようだが、大寺、猫魔に続く第三の時期の最も新しい火山である。

基底岩石は、第三紀の凝灰岩、負岩、片麻岩、結晶片岩類で、これらを切って噴出した火山岩は安山岩類と火山碎屑岩類である。

爆発後数年間は全くの裸地だったが、現在アカマツ、ウダイカバン、オノオレ、コゴメヤナギなどの樹木ヤススキが生育している。一般に岩塊の多い所では落葉広葉樹を混えた、アカマツ林で泥流末端の泥土と主とする所はススキ原となっている。

○五色沼と他の湖

檜原、小野川、秋元の三大湖は大川、小野川、中津川などをそれぞれ火山性泥流が堰塞してできたもので谷筋に細長くのびている。この三つは水位は人為的に調整され、発電に利用されている。

この他泥流窪地に水を湛えてきた多数の湖沼がある。五色沼はその代表で入口磐鏡園から西へ檜原湖畔まで3Kmの間で大小200余の沼から成り主なもの11余である。色、高度、形態も種々異なり、水色透明度から三つの湖群に分ける事ができる。

九の内

湖群	湖名	高度	面積	深度	水色	PH	魚類	備考
柳沼湖群	弥六沼	830 ^m	20,600 ^{m²}	7.8	緑	6.3	フナ、コイ	・透明度3~4m
	西柳沼	"	3,000	3.5	緑	6.3	フナ、コイ	・地下で連絡している
	柳沼	"	22,300	12.2	緑	7.2	フナ、コイ	
弁天沼湖群	璃璃沼	825	18,100	9.0	青白	4.3	ハヤ	・透明度は深度より大
	青沼	815	5,750	5.7	青白	4.4	ハヤ	・湖底の白色沈澱物が見える
	弁天沼	810	30,300	6.7	青白	4.5	ハヤ	
昆沙門沼湖群	竜沼	795	10,200	9.1	緑赤	6.2	ハヤ	・複雑で大きい泥流窪地
	深泥(ミドロ沼)	790	11,100	5.8	緑赤	5.8	ハヤ	・と丘陵が見られる。
	赤泥	795	2,300	4.0	赤	3.3		・濁った赤、酸化鉄の粒子が浮遊
	昆沙門沼	780	7,6600	8.4	緑-青白	4.5	フイ、フナ	

この沼群は一つの水系が所々でせき止められてできたもので、沼は一つの流れでつながっている。沼によって底から鉄泉や硫黄泉が湧き出し、沼底に赤褐色の水酸化鉄や白色の硫黄質の沈澱が生じ水底の藻の影響もあって水面から反射される日光の色が朱、緑、青、コバルト、エメラルド等の色に輝いて見える。曇った日にはいづれもにぶい灰色に見える。

猪苗代湖と周辺の地理・地学生物

○高度514m、面積103.6Km²(第五位)湖岸線56Km、最大深度94.6m、この湖の成因についてははっきりわからない。東岸には川桁(ゲタ)断層と称される南北約30数Kmの大断層が古生代末の花崗岩類及び第三紀中部の凝灰岩質を切って断層崖を残している。西側にも南北性の赤井谷地断層があり岩脈の多くも走向は南北を示している。

この事から第三紀の末頃までは南北性の断層裂開盆地を形成していた所へ北方の大寺火山が第四紀洪積世の初めに爆発し盆地を堰止めたものと推定されている。又火山噴出物のため地下に空所が生じ、湖盆は沈下し更に猫魔、磐梯火山に活動が移りそのたびごとに猪苗代湖盆が沈下したものと考えられる。だから洪積世初期には湖水が現在よりもはるかに大きかったと想像される。北西部を堰塞している火山性泥流を翁島泥流といひ猫魔、磐梯のいづれかの西部から押出された物で、先史遺物をのせている。戸ノ口原付近にある。この湖唯一の島、翁島も泥流丘陵でこの近くでは泥流が湖底にのびて地と異った湖盆地形を成している。即ち他の部分では深度70mまで等深線が湖岸に密集して急勾配で湖底にのぞむのに、ここはかなり勾配がゆるや